

2019年8月9日「観光・ブランディングシンポジウム in 北海道」

来賓挨拶 北海道運輸局長 大高 豪太

本日は皆様のご参加のもと、観光・ブランディングシンポジウム in 北海道が開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、主催者である運輸総合研究所の宿利会長をはじめ、このシンポジウムの準備をされた方がた、そして本日講演していただく方がたに心から御礼を申し上げます。日頃より観光行政、そして交通行政に本日はお集まりの皆様には格段のご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、北海道においては世界に選ばれる観光地を目指して北海道の強みである食、そして雪を全面に出したプロモーションを行っております。北海道のスノーリゾートは、世界に数多くある国際リゾートの中でも特に高い評価をいただいております、比較的高度の低い山々でまさにパウダーと呼ばれる質の高い雪を楽しむことができ、世界中のスキーヤーを魅了してきたところでございます。倶知安、ニセコにおいては、外国資本のコンドミニアム、そしてホテルの建設が続いており、オーストラリアのみならず、香港、中国、そしてシンガポールの高所得者層も多く訪れるようになってきております。また北海道においては、体験型、滞在型の観光スタイルであるアドベンチャートラベルを北海道のブランドとして積極的に打ち出していこうと考えております。このアドベンチャートラベルは、欧米そして南米、ヨーロッパで約4.9兆円の市場がある新しい旅のスタイルと言われており、一般の旅行者に比べて、このアドベンチャートラベルを楽しむ方は、約2倍の消費をされると言われております。このアドベンチャートラベルは、自然、そしてアクティビティ、そして異文化交流、異文化体験など3つの要素のうち2つの要素を含む旅のスタイルであり、バードウォッチング、キャンピング、ハイキング、そしてカヤック、登山、トレッキングなどの、いわゆるアクティビティ体験と共にアイヌ文化、縄文文化など異文化体験などを行うことによって、日常生活では味わうことができない特別な体験を通じて、自分の内面が変わっていくようなそういうような旅のスタイルをアドベンチャートラベルと呼んでおります。恵まれた雄大な自然環境、そして魅力的な伝統文化を有するこの北海道にふさわしい旅のスタイルであり、我々もこの北海道にアドベンチャートラベラーを誘致すべく、ガイドの育成、そしてコンテンツの磨き上げなどの準備を行っております。

また、今年の10月に倶知安町でG20観光大臣会合が開催されます。この観光大臣会合においては、持続可能な目標、SDGsと言っておりますけれども、それに対する観光の貢献がテーマとなっております。旅行者などの需要に適応しつつ、現在、そして将来の経済・社会・環境への十分な配慮を行った持続的な可能というテーマは、この豊かな自然環境や魅力的な伝統文化を楽しむアドベンチャーツーリズムにとって、大切にしなければいけないコンセプトと考えております。このような考え方のもとで、自然、文化、アクティビティ、そして食をさらに質の高いものにしていくことこそが北海道ブランドの広めていくために大変重要ではないかと考えております。

他方で、北海道は九州の2倍半の面積がある大変広大な土地でございます。旅行者のニーズに応えるために、誰もがストレスなく、観光を満喫できる受け入れ環境の整備をしっかりと整えていかなければならないと考えております。最近、そのモビリティ・アズ・ア・サービス、MaaSといわれる目的地までの交通手段、そしてルート、そして予約決済までをネットでしっかりできる仕組みが構築されております。このようなMaaSの取り組みもしっかり取り組むとともに、キャッシュレス環境の整備、そしてバリアフリー化など受け入れ環境の整備にも取り組んで参りたいと考えております。

昨年、胆振東部地震そしてブラックアウトからちょうど1年が経ちます。昨年の地震発生時においては、多くの宿泊施設において訪日外国人旅行者の受け入れを行っていただいたところですが、他方で、一部の旅行者の中には正確な交通情報そして避難場所に関する情報がなくて、不安な夜を過ごされた方もいらっしゃいました。このため、北海道においては官民が連携をして自然災害時に訪日外国人旅行者の方に対して、交通情報そして避難情報をわかりやすく正確に伝える取り組みを行ってまいりました。自然災害時にも旅行者にとって安全安心な地域であることこそが、北海道観光に対する信頼につながり、北海道ブランドに対する揺るぎない信用と考えております。本シンポジウムを契機といたしまして、北海道ブランドの更なる磨き上げ、そして北海道観光の振興に取り組んで参りたいと思います。

最後になりますが、本日のシンポジウムの成功、そして本日お集まりの皆様のご健勝ご活躍を祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(当日御挨拶を基に運輸総合研究所編集)